

## 第3期食と農業農村振興計画の推進に対する地区部会からの意見・提言等

## I 次代へつなぐ信州農業

番号	地区部会からの意見・提言	地区名
<b>【施策展開1】 次代を担う経営体の育成と人材の確保</b>		
1	農業者の企業化を進め、スーパー担い手、スーパー企業を育成し、地域を引っ張る体制が必要ではないか	佐久
2	農地中間管理事業は円滑化事業からの移行できずに伸びない。事務の簡略化など5年経過に伴う見直しに期待する。	上田
3	県の総合5か年計画には労働生産性について記載がある。農業分野においても労働生産性という視点をもって取り組んでほしい。農業の付加価値が高くないと、雇用もできないし、人も雇えない。	諏訪
4	農地中間管理事業の周知（特に地主への）	上伊那
5	ICT研修の強化必要。先進的経営を目指せばバックオフィス作業が増加→先端技術の活用で効率化することが必須となる（自身クラウド利用でスケジュール管理を社員らとリアルタイムに共有化し効率化）。	南信州
6	畑作地帯では集落営農の法人化は難しい。法人化の支援をしてほしい。	松本
7	何を作れば儲かるのか、県が農業経営指標等を活かした農家のサポートができることや、農家が経営相談を受けられることを、もっとアナウンスして欲しい。	北信
8	集落営農は非常に重要。若手の育成や経営安定のため、関係者一丸となってすすめていく必要がある。	上伊那
9	消費者に安定的に農産物を供給してもらうためには、農業労働力を安定的に確保していく必要があり、労働力を補う意味で計画はどうなっているのか。	松本
10	農業の雇用に当たって即戦力となる人材が確保できる仕組みが必要ではないか。	佐久
11	新規就農者が経営安定を早期にできるよう農業次世代人材投資事業の予算を十分に確保してほしい。	佐久
12	新規就農者の確保については、45歳以上の者に対しても助成が必要。	上田
13	新規就農者への支援については、地元にいる子供たちが農業を継続して行っていくための支援についてもう少し努力してほしい。	諏訪
14	新規就農者が定着して、経営がなりたつような施策をとることが必要。	諏訪

番号	地区部会からの意見・提言	地区名
15	新規就農を進める上で、例えば牧草地のど真ん中に果樹園が入るとドリフトなどの問題が生じるので、ゾーニングを図るべき。	上伊那
16	農業に興味を抱く者を増加させる戦略の具体化必要。ターゲットを明確にし「魅力ある農業」をプロモート。	南信州
17	Iターン者への指導、就農後の応援体制が必要。都会から農地、家もない人が来て農業に取り組むという厳しい状況の中で、就農者に目標があり、それを周囲が支える体制の検討が必要	長野
18	5ヶ年計画の根幹は人づくり。新規就農里親支援事業の里親として研修生を受け入れたが、どこまでが親の責任で、子（研修生）はどこまで責任があるのかを示してもらいたい。	長野
19	新規就農者の育成・支援を進めたい。これからは企業的な感覚をもった経営が大事で、その支援や、県内外の成功事例を若い農業者に紹介・波及させ、人材確保につなげていくことが大切である。	北信
20	病気等で急に出来なくなった園地を引き継ぐ受け皿づくりが必要ではないか。	佐久
21	水稲受託者も高齢化が進み、受託者がいなくなると地域で耕作をする人がいなくなってしまうので地域で農地が守れる基盤づくりが必要ではないか。	佐久
22	外国人技能実習生の特区の認定を早期にお願いしたい。（3年間の中で行ったり来たり出来る運用）	佐久
23	農作業事故を無くすため、講習会の開催が必要ではないか。	佐久
24	酪農家が67戸から60戸に減少した。荒廃農地増加の懸念がある。	上伊那
25	子育て中の母親活用を検討してほしい。	南信州
26	集落の「結い」機能を復活させる必要。	南信州
27	営農継続が困難になった方々のネットワークづくりにより早期対応する必要。	南信州
28	周囲の様子から5年後のリタイヤ急増を懸念。農地流動化対策の具体策が急務。	南信州
29	農繁期の人材確保に向けた「県の基本方針」必要。外国人労働力、パートタイマーなど確保方を広域で議論を。	南信州
30	農家の高齢化で法人や担い手に田んぼが集まってくる。人を増やさないとできないが、儲けも出さなくてはいけないため、簡単に面積を増やせない。	松本
31	農地の流動化を進めているが、条件のいいところは貸してもらえないため、集積・集約化が難しい。	松本

番号	地区部会からの意見・提言	地区名
32	人材不足が深刻で、大規模水田経営では、穀物以外の園芸作物等に取り組みたくても労力が確保できない状況。さらに一歩進んだ人材確保対策が必要。	北アルプス
33	今、農業をやっている人たちに、これから農業、農地をどうやって行くか考える機会を集落で数多く持ち方針をしっかりと立てるのが大事と思う。	長野
34	各市町村、農協の懇談会で、農家子弟が農業をしなくなれば、農地を有効に使う方向を出していく必要がある。	長野
35	農業経営には、これだけの農地と日数がかかるというのをもう少し明記してもらいたい。	長野
36	農業女子が注目されている中で、バックフォー、SSなどの機械の免許取得に対する支援を強化して欲しい。	長野
37	農産物が高値で売れ所得が向上すれば農業に携わる人も増える。その辺を重点的に県の計画プランに沿って進めていただきたい。	長野
38	労働力について、地域内での確保はむろん外国人の労働力活用の検討が必要である。	北信
39	農業生産構造等のイメージの棒グラフをみると、中核的経営体よりもその他の経営体農家・自給的農家の割合が多い。小規模農家への所得アップに対する支援策も必要である。	北信
40	農福連携は新しい形であり、農業の担い手・労働力確保の面から、その支援策が必要である。	北信
<b>【施策展開2】 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産</b>		
41	ICTの活用などスマート農業を拡大していく必要がある。	上田
42	観光立県として観光農業への注力は重要。	南信州
43	温暖化で転作の品目選定に悩んでいる。安曇野は水が豊富なので、水稻が最適で、米の買い付けに来る業者から安曇の米をもっと欲しいといわれる。31年からどうなるか心配。できれば米を作りたい。	松本
44	きのこは県の主要農産物だと思うが、スーパーであまり長野県のきのこを見かけないように思う。県としてもっときのこに力を入れたほうがいい。	松本
45	種子法が廃止になり、優良な農産物の安定生産に不安がある。県は種子法の問題をどうするのか。	松本
46	種子の安定供給のために法的な裏付けが必要。	松本
47	マルキンについて、長野県は全国算定基準を採用しているため、基準が高くなかなか適用にならない。独自基準を採用している県もあるので、長野県も独自基準にできないか。	松本

番号	地区部会からの意見・提言	地区名
48	信州産の山菜やきのこも県外に広めていきたい。	松本
49	これまでの販売体系から、一次加工するカット野菜とか業務需要に適した農産物を作る体系が必要。これからは一次処理で消費者が簡単に食べられるといったものに転換することが持続可能な生産につながっていく。	長野
50	きのこ生産者はGAP取得やコスト低減など、できる努力をやり尽くしてギリギリの状態経営している。スーパーに販売価格を握られているのが現状。10年後、次代につないでいくには、少しでも高い価格で販売してもら	北信
51	柑橘類が高単価の新品種が出てきている。近年、果物の単価は上がってきている。付加価値の高い農産物を栽培していくことが重要である。	北信
52	安全・安心や自然環境との共存を考えると環境にやさしい農業のステップアップが必要	佐久
53	GAP、HACCPの必要性は認めるところだが、利益があがることも重要であり、あがってくれば取組も拡大していく。	上田
54	長野県環境にやさしい農産物認証を取得して生産物の販売を行っているが、消費者の認知度が低い。エコファーマーのほう知られている現状であり、もっと消費者に知ってもらえるような取組が必要。	諏訪
55	直売所では環境にやさしい農産物コーナーを設けているが、客は価格を見て買っていくことが多く、あまり売れないのが現状です。もう少しPRが必要。	諏訪
56	直売所において、山梨県産と長野県産の農産物を扱っている。山梨県はずでに山梨GAPとし統一されている。長野県も認証云々ではなく、これからはGAPへの取組に力をいれたほうがよいのではないか。また、山梨県はGAPの農産物の販売等も体系化されているように思えるが長野県はいまいちではないか。	諏訪
57	安全安心を消費者は求めている。これをよりPRしていくべき。	上伊那
58	多種多品目生産をフォローできる体制づくり必要（普及センター、JAの技術指導機能の充実）。	南信州
59	消費者のニーズは変化してきており、加工品にしても、無農薬か、どのような原材料かなど、気にかけている。生産者が高齢化する中、今後の農業の持続、環境農業への取組持続が危惧される。	北信
60	ブランド力を上げるには、一定の基準以上の品質が必要ではないか。（出来ちゃったシャインマスカットではだめ）	佐久
61	消費者が求める新品目の奨励が必要。	上田
62	ブロッコリーの根こぶ病を回避し連作を可能にしてほしい。	上田
63	家でりんごを作っているが、地球温暖化を実感している。温暖化等の環境変化に対応した試験研究に力を入れていただきたい。	上伊那
64	人手不足を補うため、ドローンなど確立された新技術の活用に期待。	南信州

番号	地区部会からの意見・提言	地区名
65	新しい化栽培で作業軽減を実感。新たな栽培技術の普及拡大は有効。	南信州
66	シードルなど一定の用途に応じた栽培技術の確立を。	南信州
67	風さやかやホワイトファイバーを増やしてほしいと言われる。風さやかを増やしている。コシヒカリ偏重は良くない。	松本
68	黒星病対策をしっかりと対応してほしい	松本
69	風さやかを栽培しているが、取引業者の評価は高い。実需等の評価に見合った販売をするべき（安売りはしない）。	北アルプス
70	アスパラも病害の発生や栽培者の高齢化で、栽培面積の減少が顕著。次代につなぐ対策が必要である。	北信
71	安定供給の面では、50年に一度、100年に一度というような自然災害を想定した産地でないといけないのではないか。	佐久
72	果実やスイカの集出荷施設が老朽化していて、改修しなければならないが、補助事業の採択が難しい。農家の所得確保のために対応してほしい。	松本
73	生産施設の設置に国庫補助をもらっているが、県や市町村からも上乘せの補助がもらえないか。県や市町村の農業振興の方向性を示す必要がある。	松本
<b>【施策展開3】 需要を創出するマーケティング</b>		
74	12月から3月初旬までの野菜の生産が毎年安定しないので、長野県での産地形成ができないか。	佐久
75	G I 制度を推進してほしい。	上田
76	市田柿でSNS効果を実感。SNS活用促進を。	南信州
77	情報社会の中、知的財産保護の強化が一層重要。	南信州
78	「京野菜」如く県産ブランド化の推進を。	南信州
79	農産物の技術的課題に対してタイムリーな情報発信が重要。	松本
80	きのこ価格について、生産者は買い手の力に対抗できないのが現状、公正な価格形成に対する支援をお願いしたい。	北信

番号	地区部会からの意見・提言	地区名
81	長野県の農産物を全国にどんどんPRし、県の外に売って行って欲しい。	北信
82	生産額等には反映されてこない格外品などももっと活用できないのか。	諏訪
83	農業者のマーケティング力は決して高いとはいえない。認証取得農産物のニーズなど、更に市場調査を行っていくべき。	上伊那
84	定年等で就農する者の農産物の販売先をしっかりと確保してやる必要がある。	松本
85	消費者のニーズをとらえて農産物の生産に取り組む重要性が増している。	北アルプス
86	圧倒的に共稼ぎの家庭が多く、単身者、仕事をもつ女性も多いため、農産物の60%以上はカット野菜といった流通体系になると言われ、消費者の形態が大きく変わってきている。	長野
87	消費動向は、必要最低限の購入で、ゴミが出なくて調理に時間をかけられない状況で、今後さらに進んでいく。	長野
88	県外で県産農産物のファンを獲得するため、民間段階での県外での販売活動に対する費用について、支援（助成）を受けられる施策があるとよい。（地域発元気づくり支援金で、県外出展も支援するなど）	北信
89	流通関係者からは、果物の冷凍もの、農産物の輸出（特にGAP認証のある農産物）などのニーズがあり、今後、伸びしろが見込まれる。	北信
90	信州の標高差を生かした農産物のリレー出荷や、四季を通じたマーケティングで売り場を確保、拡大されたい。	北信
91	人口が減少する中で、国内では農産物が過剰になる。海外への輸出に取り組む必要があり、若い人に海外を経験させる必要がある。語学も大切になる。	松本
92	今後の人・モノ交流を具体化した戦略立案を。	南信州
93	6次産業への取組はとても難しい。もう少し県からの補助や工業技術総合センター食品技術部門の活用を紹介すれば大勢の方に間口が開くと感じる。	長野

### 第3期食と農業農村振興計画の推進に対する地区部会からの意見・提言等

#### II 消費者とつながる信州の食

番号	地区部会からの意見・提言	地区名
<b>【施策展開1】 本物を味わう食と食し方の提供</b>		
94	消費者は、便利さや、手間がかからない、必要な量しか買わない傾向にあるので、それにあった品質規格の検討も必要ではないか（きのこは、ほとんどカット、野菜もカットが進んでいる。）	佐久
95	本物を味わうこと、伝統野菜や郷土料理等を伝える機会を創出してほしい。	上田
96	「おいしい信州ふード」の取扱店が分かりにくい。ポスター等の掲示を増やして広報をより行ってほしい。	上伊那
97	国「食料自給率の向上方針」に対し、本県主力の野菜、果物の消費による貢献度をPRしては。カロリーベースでなく重量ベースでの取組方向。	南信州
98	宿泊客に対して「県産ワイン」とか「風さやか」などを表示したPRを行うなど、農業と観光のマッチングを進める必要がある。	松本
99	直売所は、冬期間の品揃えが課題。品種改良等により冬に出荷可能な野菜振興が必要。	上田
100	これからは、地消地産で、地元の農産物が地元のスーパーなどで売られることが望ましいと思う。地域内で流通の整備が必要と痛感している。	諏訪
101	「とよおかマルシェ」建設で地域内外の交流と直売増加に期待。地域の拠点づくり重要。	南信州
102	流通業として、直売所機能の強化に行政が傾注することには脅威。	南信州
103	食育や地産地消の推進が重点取組に出ているが、農村女性としては、郷土食を非農家の人達に積極的に伝えていかなければいけない。	長野
104	これからの農業者は、消費者ニーズに対応した顔の見える生産、地産地消を進めていくことが大切。	長野
105	観光客等のお土産（加工品）は、地元の材料を使ったものに置き換えていくという考え方が大切である。	北信
106	農産物直売所の充実と出荷者の拡大、信州のイメージに合った食メニューの提案が必要である。	北信
<b>【施策展開2】 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案</b>		
107	学校給食で「風さやかの日」などによりPRできないか。	松本
108	市場の機能を知ってもらうため、市場まつりや小学生の市場見学を行っている。	松本

109	小学校で郷土食のおやつづくりを教えている。本物の食を味わう食べ方の場をもっと増やしていただきたい。	長野
110	子供たちにとって食育は本当に大切だと考えている。栄養士会なども、長野県の農産物はおいしいということを広めるために、いろいろな取組をおこなっており、食農計画での取組も期待している。	諏訪
111	学校現場はもとより、社員食堂や高齢者福祉施設などで、長野県産の豊かな食材を活かした食を提供できるような取組を。	諏訪
112	食育は、子育て世代へのアプローチ強化重要。	南信州
113	子ども達に食を通じて農業に関心を持たせる戦略必要。	南信州
114	若い人はコンビニで食べ物を買って食べている。子供たちに学校で食べ物の大切さを教える食育が重要。	松本
115	災害等で売れなくなった農産物を地域の人に売る仕組みを作り、農家を支援していく仕組みを作るべき。	松本
116	地域の消費者を対象として、地域の農産物・食材がどのように作られているか等の学習会を行っている。引き続きこのような取り組みを行っていききたい。	北アルプス

### 第3期食と農業農村振興計画の推進に対する地区部会からの意見・提言等

#### Ⅲ 人と人がつながる信州の農村

番号	地区部会からの意見・提言	地区名
<b>【施策展開1】 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり</b>		
117	農地中間管理事業を使うことで、貸し手を今までより安心させるアピールが必要	佐久
118	農地を維持するため、1級河川の河床整備がもっと必要ではないか。	佐久
119	猟友会の高齢化が著しい。早めに手を打つ必要がある。	上伊那
120	交通網整備は重要だが、それに伴い優良農地が減少していく。優良農地を守っていく施策が必要。	上伊那
121	土地改良区も変化している（耕作者も加入すべき、複式簿記、高齢化など）。土地改良区を育てていくような施策も必要。	上伊那
122	水田中心から園芸品目を推進する中で水循環が変わってきている（アスパラで4月から、トルコギキョウで11月まで水が必要に）。変化に対応していく必要がある。	上伊那
123	野生鳥獣対策の推進により荒廃農地が増えることが無いよう、合せて荒廃農地が解消されるよう取り組みをお願いする。	木曾
124	集中豪雨などによる水路などの大きな被害には対応しきれない。維持管理のための予算を確保してほしい。	松本
125	高齢化で水路や畦畔の管理ができなくなってきている。農地の貸借でルール作りが必要。	松本
126	市の農業公社が集落営農の支援を行っているが、預かっている農地は道路が狭く大型機械が入れない。農道整備が必要。	松本
127	荒廃化した果樹園が病害虫の発生源となってしまう。放任園を地域で管理したいが、機械整備等に補助金を出してほしい。	松本
128	野生鳥獣被害が拡大しており、緩衝帯を整備してから防護柵を設置しているが、大変なので、畑の中へ設置できないか。	松本
129	水路が老朽化しており、改修費用の予算確保をしてほしい。	松本
130	基盤整備されていない農地は担い手に借りてもらえず、荒廃化していく可能性がある。対策を早急に検討する必要がある。	松本
131	近年、基盤整備は、要望に対して満額ついてこないことから、事業の進捗が遅れてしまう状況。国への予算要望を強くお願いする。	北信
132	農業は国土保全の役割を果たしているといった観点から、国からの支援策があれば、農村景観の維持ができ、農家も元気が出る。	北信

133	国民の理解を得て、農地保全について農業就労者だけで声を上げるのではなく、消費者と連携しながら、農業の意味・価値について理解を求める運動が必要である。	北信
134	多面的機能支払事業については一部でやめたいとの声もある。複数団体の一元化なども必要か。研修の機会が必要。	上伊那
135	中山間地域農業直接支払事業により農地を維持し、農地が減ることの無いようにして欲しい。	木曾
136	担い手の法人化ができたが、集積した農地の畦畔管理が課題。	松本
137	多面的機能支払い等は農村機能維持するために重要な取り組み。県としても取組面積を拡大する計画であるが、予算確保を含めて引き続き支援する必要がある。	北アルプス
138	特に中山間地域では人手不足が深刻である。人材の確保とともに、人手が少なくても所得が確保できる省力化等への対応をさらに進める必要がある。	北アルプス
139	獣害対策として集落ぐるみの電気牧柵等は一定の成果が感じられる。これらの面的まとまりに入らない点在する農地への支援を厚くしてほしい。	北アルプス
140	河川敷を移動した獣による被害が目立つので、関係省庁・部署が連携した対策を強化してほしい。	北アルプス
141	荒廃農地解消、中山間地域の鳥獣害対策を実際にだれがどう進めるのが課題。	長野
142	鳥獣害のエリアが拡大しているが、猟友会の人たちも高齢化し、対応が遅れている。若い人、新規就農した人が対策に参加する呼びかけ、体制が必要。	長野
143	遊休農地の発生防止として、農家がそろそろ卒業したいと思ったときに、地区へ提案して、新規就農者に借りてもらう体制が欲しい。	長野
144	中山間地域の耕作放棄地が一番の課題となっている。具体的に地域の中に入り、現場の声、中身を組入れた耕作放棄地対策をやってもらいたい。	長野
145	鳥獣対策の電柵をして作付けしていくのか、欧州のように農村景観づくりとしての農地維持をしていくのかなど、農地の利用方法（活用区域に見直し）について考える時期にきている。また、荒廃農地関係の補助金を使いやすくすれば荒廃農地の解消が進む。	北信
146	中山間地域の維持には、そこで生活ができる500万円程度の所得が確保できる施策が必要で、そのためには農業だけでなく、国土管理（国土維持、治山治水）の観点から国家レベルで考えていく必要がある。	北信
147	農業施策は大規模農業、規模拡大志向の担い手に偏重している。中山間地域を守る小規模農家の機械更新等にも補助が必要である。	北信
<b>【施策展開2】 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持</b>		
148	農業をしながら仲間と活動ができ、色々なことに情報発信をすることによって気持ちが豊かになるのではないかと。	佐久
149	移住・定住は、同じパイ（全体数は変動していないと思う）を取り合っているのではないかと。移住したいと思っただけの支援策が必要。	上田
150	集落や地域自らが集落を守る取組を考えていく必要がある。	上田

151	Iターン就農等移住者は住居問題が不可避。県、市町村による連携した対応必要。	南信州
152	集落の「結い」機能を復活させる必要(再掲)。	南信州
153	都市と農村の間で人の循環ができれば、移住・定住、子育てにつながる。都市と農村のつながりを強くする取り組みをしてほしい。	木曾
154	農村コミュニティは壊れつつある。農業者だけが農村を守っている。勤め人も含めて総合的にコミュニティを守る必要がある。	松本
155	昨年から農福連携で福祉施設の人に農作業をしてもらっている。本格的に実施するためにコーディネートする人を置きたいが、人件費の助成をしてほしい。	松本
156	労働力補完対策については、厚生労働省の所管になっていて難しい。農水省所管にして、簡単な手続きにできないか。	松本
157	定年退職者等については、所得より「やりがい」や楽しさを重視して、仕事を求めている。農作業や農村環境の維持等についても、この視点を含めた人材活用が重要。	北アルプス
<b>【施策展開3】 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用</b>		
158	作業効率を上げるためにはほ場の大区画化が必要。農業地帯として残すためには、作業効率の良いほ場にすべき。補助金で実施したいが簡単にできないか。	松本
159	東側の山は松が枯れていて、山崩れによるため池被害が心配される。	松本
160	地域の取り組みに「観光農業」が触れられていない。農業をにぎやかにするためには観光農業を進める必要がある。	松本
161	農家民泊・農業体験等を通じて都市住民と交流をしているが、地域の魅力は自然と景観である。この景観維持に日本型直接支払制度は重要。地域住民のみならず都市の消費者にもこのことを周知する必要がある。	北アルプス
162	地域の農産物や農村の景観が商品となるようPRが必要である。	北信

**その他**

番号	地区部会からの意見・提言	地区名
163	5か年の計画を実践するための施策づくり・予算確保をしっかりと行ってほしい。	上田